

文藝運動と労働運動

平林初之輔

青空文庫

明治以來の文藝運動は流派と流派との争いであつた。それは單に個々人の性質や、趣味や、學閥や、交友關係によつて集る群と群との争いであつた。論争點は主として描寫の様式、文體、せいぜいのところでは藝術價値の見方、人生觀の相違にとどまつた。

最近に起らんとしている階級藝術の運動は、少くもその本質に於ては階級闘争の一現象、階級闘争の局部戰、階級戰線の一部面に於ける闘争でなければならぬ。従つてこれは單なる文學運動、紙上の運動としては解決の見込みがない。階級戰の主力なるブルジョアとプロレタリアの決勝によりてのみ解決されるものである。

かくの如くプロレタリア文藝運動の意味を極限することは、文學者にとりては不滿であるかも知れない。文藝に一生を捧げている人達にとつては文藝運動は一切であり、絶對であつて、階級闘争の一小部分の戰線を分擔するといふだけに止まらぬといふ人があるかも知れない。然しながらそういう人々は階級藝術の意義を遂に理會し得ず、調子に浮かされて吾知らずその運動の中へ飛びこんでいる周章者あわてものに他ならぬのだ。そういう人々は今の

内に、けちくさい、あまり見榮えもしない階級戦の隅つこの方に陣どる代りに、「階級」というような窮屈な鎖はかなぐりすてて、藝術そのものの晴れの舞臺へ出づべきだ。

如何なる運動にも不純分子が集る如く、階級藝術の運動にも不純分子が寄つてたかつてそれを利用し、くいものにしようとする。階級文藝の旗じるしの下にかくれてこそ泥をはたらこうとする者がある。かくてはじめの中は階級藝術の問題は無名作家と流行作家との争いのように見られていた。實際、社會主義運動の中に、働くことのきらいなごろつきや食いたおしやがまじりこむと同じように、階級藝術運動の中にも、文藝のいろはもわきまえない連中が、糞真面目な月給取商賣はいやだからというのであわよくば流行作家になりすまそうというどえらい野心を抱いて飛びこんだもののがあつたことは事實である。プロレタリアの運動としての文藝運動はまずこういう人々の蟲のよい野心に對して答うるところがなければならぬ。プロレタリアの文藝運動は流行作家の悪口をいう運動でもなければ、新進無名作家を引きたてたり擁護したりする運動でもない。無名と有名、流行と非流行とは問うところでない。それは階級戦である。ブルジョアに對するプロレタリアの對抗運動である。

次にプロレタリアの文藝運動は文藝運動であるよりも先ずプロレタリアの運動であるこ

とを念頭におかねばならぬ。だからその綱領は文藝上の綱領ではなくて、プロレタリアそのものの綱領でなければならぬ。プロレタリアの解放——それがプロレタリア文藝運動の唯一の綱領である。それ以外のものを求めるのもまたプロレタリア文藝運動の陣營を去つて「階級」の「上」に赴くべきだ。文藝の争いの奥に階級の争いを認むるもののみ、影法師のうしろに實體を、枝葉の下に根幹を認むるもののみが階級藝術運動の戦士となり得るのである。

階級闘争の決勝戦はただ本隊の衝突によりてのみ決せられる。文藝運動はこのプロレタリア大衆の運動と協調聯絡を有しなければ全然無効である。大衆と離れた運動はただ徒勞であるか或は邪魔になるだけのものである。自ら階級文藝運動の戦士を以て任ずる人々にして往々これを理會しない爲めに大衆に對する運動を個人同志のこぜりあいと勘ちがしているものがある。論敵や流行作家を緘かんこう口せしめることが何等かの絶對的意義を有しているかのように彼等は思いこんでいる。併しながら、局部の些々たる勝利から全線の勝敗が逆睹ぎやくとされないと同じく、そんなことはいうに足りない。文藝家が凡てプロレタリアの軍門に降るとしても、依然としてプロレタリアの文藝運動は繼續される、一層の熱心をもつて、大衆がブルジョア觀念から解放されるまで。ブルジョア階級がたおれるまで。

要するにプロレタリアの文藝運動はそれ自身に絶對意義を有するものではない。プロレタリアの政治運動や勞働運動との提携によりてのみ意味があるのである。そんな相對的意義しかない運動では張り合いがないと思う人は、絶對運動に携るがよい。そして神でも射とめるがいい。太陽でも吹き落すがいい。

プロレタリアの文藝運動は單なる觀念と觀念との戦いではない。その背後に利害と利害が睨みあい、權力と權力とが對峙たいじしている。だからその運動は觀念の一起一伏でけりがつくものではない。それは長期にわたる、あまり華々しくなく、しかも困難に満ちた運動である。萬人歡呼の裡うちに決勝戦に入るマラソン競走ではなくて、雪と險路と窮乏と寒氣とのシベリヤ旅行のようなものである。そしてマラソン競走のように勝つても褒美が貰えるわけではなく、途中で行き倒れるかも知れない運動である。その報酬はただ無産階級の解放があるのみだ。この困難に辟へきえき易し、この忍耐に怖じけづく人々は、プロレタリア文藝運動の行列を去つて、紅白の幔幕まんまくでめぐらした運動會場に赴くがいい。そこにはすぐに喝采してくれる群集がいる。おまけに子女もいる。

プロレタリア文藝運動は氣質や趣味で決せられるものではない。沉いんや一時の醉興で、これにまじらるべきものではない。前途は險難だ。光明の此方に闇黒いばらと茨いばらと鐵條網がある。

しかもあまり榮えない運動だ。決勝力をもたない、一種の補助運動、牽制運動と言つてもいい位だ。この運動にたずさわる人はあまりに自己の役割を過大視してはならない。

しかし大衆運動の一成員、壓迫されたものの運動の一員として、たとい隅つこの一部分でも、或は前衛隊の一員でもを分擔することは光輝あることではないか。特に後者たり得るならばこれ以上生き甲斐のある仕事はまたとないではないか。

(大正十一年六月)

青空文庫情報

底本：「日本現代文學全集69 プロレタリア文學集」講談社

1969（昭和44）年1月19日初版発行

入力：田中亨吾

校正：大野裕

2000年11月10日公開

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

文藝運動と労働運動

平林初之輔

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>